

鬼北町立広見中学校

道德通信

NO. 21

令和7年10月21日発行

よりよく生きる

2年生道德授業の紹介「リスペクト アザーズ」(読み物資料)

【資料のあらすじ】

アメリカのサンディエゴで育った筆者「僕」。多民族社会のサンディエゴでは、人間関係のトラブルがあると先生たちが「リスペクト・アザーズ」と言い、根本の考え方を問題にする。その後、日本の小学校に転校した「僕」は、うまくできたことを周りの人に伝えたと「自慢だ」と言われた。日本では、相手を侮辱するような言葉を言っても「冗談」とうやむやにしている。「僕」は、日本でももっと「リスペクト・アザーズ」が浸透するべきで、人権尊重の社会を作っていくのは僕たちだと語る。



リスペクト・アザーズに込められた思いとは？(生徒の意見)

- ・ 他人のことを尊重する思いがあれば、いじめや差別は自然となくなっていくはずだから、みんなが幸せな気持ちになるためにも、リスペクト・アザーズの精神を大切にするという思いがある。
- ・ みんな違ってみんないい。個性を認める。他人と違って当たり前という考えを持つ。
- ・ 世界中のみんなが仲良くしてほしい。みんな、できることとできないことがあるということを知ってほしい。一人一人が違うということを理解して、自分も相手も大切にしてほしいという思い。

差別のない集団・社会にするためには？

- ・ 一人一人が相手の個性を尊重し、相手や自分の気持ちになって行動すること。
- ・ 自分のことだけではなく、相手のことを理解する。リスペクト・アザーズを、自分たちで広めていく。個性を尊重し、相手のことを考えて行動する。
- ・ 自分のことも相手のことも、しっかり理解して、お互いが支え合っていける集団。相手の悪いところを見つけるのではなく、相手のよいところをたくさん見つける。相手のできること、できないことをしっかり理解して、協力し合う集団。
- ・ 自分の考えだけを押し通すのではなく、相手の意見、考えも尊重し、自分も相手も大切にしていけること。

今回の授業は、違いを前提に、自分と合わない相手であっても、同じ集団や社会の仲間としてその個性や存在をありのまま認めることで、人権が尊重されるということが学べる資料でした。私たちの考え方は、育った環境、社会の中で形成されていきます。そのため、自分と合う・合わないという感情を全てなくすことはできないと思います。しかし、私たちはお互いに、同じ集団や社会の一員同士でもあります。同じ仲間として、その個性や存在をありのまま認めようとする意識は、差別や偏見のない社会の実現に欠くことのできないものなのかもしれません。